

2014年度  
授業評価アンケート集計結果(全体)

設問文	受講者数 別区分	全体 平均	強く そう思う	やや そう思う	どちら でもない	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない	有効 回答数	無効 回答数
<b>1. 授業内容について</b>									
(1) 授業の内容に興味をもてた。	全体	4.16	41.4%	40.3%	13.1%	3.5%	1.7%	6,689	21
	100名以上	3.94	31.7%	42.2%	17.4%	5.6%	3.1%	1,139	3
	100名未満	4.21	43.4%	39.9%	12.2%	3.1%	1.4%	5,550	18
(2) 授業の内容は体系的でよくまとまっていた。	全体	4.21	43.6%	39.4%	12.7%	3.0%	1.3%	6,683	27
	100名以上	4.02	35.8%	40.4%	16.5%	5.0%	2.3%	1,138	4
	100名未満	4.25	45.2%	39.2%	11.9%	2.5%	1.1%	5,545	23
(3) 授業の内容は勉強の意欲をかきたてるものが多くあった。	全体	4.04	37.6%	37.0%	18.9%	4.5%	2.0%	6,671	39
	100名以上	3.82	29.3%	36.6%	24.5%	6.3%	3.3%	1,138	4
	100名未満	4.08	39.3%	37.0%	17.7%	4.2%	1.7%	5,533	35
(4) 授業の内容は量的に適切であった。	全体	4.17	43.5%	37.5%	13.4%	3.9%	1.6%	6,670	40
	100名以上	3.99	34.6%	39.5%	18.3%	5.3%	2.4%	1,139	3
	100名未満	4.21	45.3%	37.1%	12.4%	3.7%	1.4%	5,531	37
(5) 授業の内容はシラバスに沿ったものであった。	全体	4.25	45.9%	35.9%	16.1%	1.3%	0.7%	6,668	42
	100名以上	4.06	36.4%	38.5%	21.3%	2.0%	1.7%	1,139	3
	100名未満	4.29	47.9%	35.4%	15.0%	1.2%	0.5%	5,529	39
<b>2. 授業方法について</b>									
(6) 授業はよく準備されていた。	全体	4.38	54.0%	33.1%	10.4%	1.6%	0.9%	6,675	35
	100名以上	4.17	41.8%	39.6%	14.2%	2.8%	1.7%	1,137	5
	100名未満	4.42	56.5%	31.7%	9.6%	1.4%	0.7%	5,538	30
(7) 担当教員の熱意が感じられた。	全体	4.33	53.1%	31.8%	11.5%	2.5%	1.1%	6,675	35
	100名以上	4.14	43.3%	35.9%	14.2%	4.4%	2.2%	1,135	7
	100名未満	4.37	55.1%	31.0%	11.0%	2.1%	0.9%	5,540	28
(8) 授業のテンポや進行具合が適切であった。	全体	4.20	46.3%	34.9%	13.1%	4.0%	1.7%	6,664	46
	100名以上	3.99	36.3%	37.6%	17.9%	5.4%	2.9%	1,136	6
	100名未満	4.24	48.4%	34.3%	12.2%	3.7%	1.5%	5,528	40
(9) 担当教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。	全体	4.25	50.7%	31.1%	12.7%	3.8%	1.7%	6,649	61
	100名以上	4.07	41.8%	34.3%	16.0%	5.3%	2.6%	1,134	8
	100名未満	4.29	52.5%	30.5%	12.0%	3.5%	1.5%	5,515	53
(10) 板書の仕方は適切であった。 <small>(黒板を使用していない場合は「どちらでもない」を選択する事)</small>	全体	3.95	36.3%	31.3%	25.7%	4.9%	1.9%	6,651	59
	100名以上	3.92	35.3%	36.2%	17.2%	7.6%	3.7%	1,135	7
	100名未満	3.96	36.4%	30.3%	27.4%	4.3%	1.6%	5,516	52
(11) 映像機器が効果的に使用されていた。 <small>(映像機器を使用していない場合は「どちらでもない」を選択する事)</small>	全体	3.85	35.1%	19.7%	41.8%	1.9%	1.6%	6,574	136
	100名以上	3.51	21.4%	18.3%	54.4%	1.8%	4.1%	1,120	22
	100名未満	3.92	37.9%	20.0%	39.2%	1.9%	1.1%	5,454	114
<b>3. あなた自身について</b>									
(12) この授業によく出席した。	全体	4.40	56.2%	30.1%	11.6%	1.7%	0.3%	6,628	82
	100名以上	4.34	52.2%	32.5%	13.1%	1.6%	0.6%	1,131	11
	100名未満	4.41	57.1%	29.6%	11.3%	1.7%	0.3%	5,497	71
(13) この授業には積極的に取り組んだ。	全体	4.20	44.6%	35.1%	16.4%	3.1%	0.8%	6,625	85
	100名以上	4.06	37.7%	37.2%	19.5%	4.2%	1.3%	1,131	11
	100名未満	4.23	46.1%	34.6%	15.8%	2.8%	0.7%	5,494	74
(14) この授業のために予習・復習をした。	全体	3.46	24.2%	26.4%	30.1%	10.0%	9.2%	6,639	71
	100名以上	3.38	22.2%	26.7%	29.7%	10.2%	11.2%	1,131	11
	100名未満	3.48	24.7%	26.4%	30.2%	9.9%	8.8%	5,508	60
(15) 受講態度はよかった。	全体	4.18	43.2%	35.8%	17.9%	2.3%	0.8%	6,599	111
	100名以上	4.03	36.4%	37.1%	21.6%	3.1%	1.8%	1,121	21
	100名未満	4.21	44.6%	35.5%	17.1%	2.2%	0.6%	5,478	90

編集・発行

中央学院大学 商学部報編集委員会

〒270-1196 千葉県我孫子市久寺家451 TEL: 04-7182-1441

# 商

CHUO GAKUIN UNIVERSITY

# 学部報

平成27年3月6日発行

商学部は公正な社会観と倫理観の涵養をめざし、徹底した少数教育を通じて実力と創造力をそなえた有能な社会人を育成することを目的とする

## From 商学部長

## 大学における人格の陶冶

商学部長 高橋 律

### 【大学の価値は?】

大学生生活の4年間という年月は基本的に「長いようで短い」とよく言います。そして、卒業した社会人に、「大学での勉強は役立っているか?」と聞くと、大体は「何を勉強したかよく覚えていない」という答えが返ってきます。そうだとすると、何を学んだか分からないけれど、あつという間に4年間が経過してしまふ「大学生生活」とは、どういうものなのでしょう。例えば高卒と大卒の差はどこにあるのでしょうか。確かに初任給は大卒のほうが高く、また、昇格の面でも大卒が有利な世の中です。では、その価値はどこから生まれるのでしょうか。

### 【価値はお金か?】

高卒で早めに収入を得始めるのと、大学に行って払った学費を差し引きした上で生涯賃金を換算すると、高卒と大卒に大きな開きはないという説もあります。場合によっては学歴と賃金や昇格が比例しない職種や業界もあります。そうすると、大学生生活というのは無駄なもののようにも思えてきます。なぜ、無駄な費用と労力を4年間も費やすのでしょうか。それはきっと、無駄のようには見えて無駄ではないからなのです。例えば、「人との出会い」という点でいうと、生涯の友とも呼べる親友と大学時代に出会うという事が往々にしてあります。

### 【人との出会い】

もちろん高卒で社会に出た人が、高校時代までに親友に出会うことも当然あります。大体、社会に出る直前に在籍した学校で出会った友との付き合いが、長く続くようにも思われます。恩師も同様です。ゼミの指導教授と大学で出会い、その後もOB・OG会などでその先生との交流が永く続く事もよくあります。先生だけではなく、先輩後輩との関係もそのような場から生まれてきます。場合によっては、その縁で就職がうまくいったり、卒業後の仕事が順調にいたりすることもあります。

### 【飛躍のステージ】

学生時代を過ごす18歳から22歳くらいの年齢というのは、人生の中のどういう時期でしょう。20歳からは法的にも立派な大人です。頭脳や身体の発達でもベストな時期だと言えませんか。ですから、本気で何かに取り組んだ時に、相当の位置まで上り詰めることも可能です。その証拠に、本学にも部活動で全国を制するような活躍をしている学生さんがいます。これは学業や運動に限りません。無論、すべての学生さんが目を見張るような活躍をする訳ではありません。額に汗してアルバイトに精を出すこともまた尊い経験です。お客の立場では気がつかない視点から、学ぶことも多いはずですよ。

### 【陶冶とは?】

こう考えると、はっきりとした効用は分かりにくいけれど、学内外での経験の数々が、自分自身の成長につながっていると言えるのではないのでしょうか。辞書で「陶冶(とうや)」の意味を調べると、「人の性質や能力を円満に育て上げること」と書かれています。様々な科目やゼミナール、部活動やサークル、各種イベント、アルバイト、その一つ一つが卒業後の何に役立つかはその時には分かりません。ですが、めぐりめぐって人間的成長、いわゆる人格の陶冶につながっているに違いありません。大学に用意された成長のスタンプラリーに、多くの学生さんが参加してくださいと思います。



2月7日開催の高橋ゼミナールの15周年記念進出コンパには歴代の卒業生も出席



2014年4月、初めてピンク色の桜が目の前に映り、初めて一人で日本へ、春という季節に伴いながら私は淡江大学から中央学院大学での交換留学生生活が始まりました。まだ日本の大学に入ったことのない興味津々だった私が、実際には3年生ですが、入学式にも参加しました。学長先生方の話を聞きながら心をゼロに戻し、この一年間を楽しんで過ごしたいと思いました。入学式の当日、広場で多くの部活動の勧誘活動が行われていて私にチラシを配ってくれました。その中で最も興味があったのは旅行研究部でした。新学期が始まり部活動を体験した後に大学の皆と仲良くなれ、色々なところを巡るのは一石二鳥ではないかと思いついて入部しました。

ふと思い出すと商学部を選択した理由はビジネスと会社の関係に興味を持っているからでした。授業内容がとても充実し、留学生日本語の科目を中心に履修してきた私にとっては、新たな日本社会



ホームステイ先で

の現状や制度を学べ大変勉強になりました。その他にも面白い授業を履修でき毎週の授業が楽しみでした。特に毎週あるテーマについて考える社会学と日本人の知恵や長年続いている職人技など紹介している日本文化史という授業は印象的です。台湾でなかなかない授業をここでは受講することができました。

旅行研究部の皆と梅雨時期に勝浦・房総半島を巡り、夏休みに静岡まで行き海を見た瞬間に皆一斉にテンションがあがったことがいい思い出です。学内にも体育祭、WCIイベント、留学生花火大会、留学生研修旅行、あびこ祭など様々なイベントを満喫しました。

一年前、まさか一人で中央学院大学まで来ることは想像もできなかったのですが、実際に来て様々な方と出会えて充実した毎日を送ることができました。交換留学生として貴重な経験をさせていただけたことを心から感謝しております。



留学生研修旅行(平成26年9月11・12日)

今年の1年生のプロゼミナールから3ゼミが模擬店を出店し、あびこ祭を盛り上げてくれました。次年度も積極的に参加してくれることを期待しています!

## 新田祐美奈さん(増山ゼミ)

私たち増山ゼミはあびこ祭でうどん屋さんを出店しました。ゼミ内での結束がとても強くこのゼミでの思い出を作ろうという皆の意見が一致し、増山先生の協力も得ながら寒い時期に温まるうどんを販売することになりました。ゼミ生各自が日ごろ授業で学んで

いる知識を持ち寄りながら原価の計算をし、損益分岐や利益をあげるための最終販売目標値、販売価格などの設定を綿密に行いました。初日は雨天の影響を受け1日目の販売目標数値をはるかに下回る結果で不安になりましたが、2日目に大きく挽回し最終的には680杯の完売を達成しました。ゼミの活動として毎週準備や話し合いに随分時間はかかりましたが、終わった時の気持ちは苦労した何倍もうれしかったです。ぜひ次年度もたくさんのゼミにこのような活動に参加してほしいと思います。



関岡ゼミ(パンケーキ)



ドーランゼミ(おでん)



増山ゼミ(うどん)

中央学院大学経理研究室は、学長直属の学生研究室の1つで、公認会計士、税理士、簿記検定試験などの合格を目指して、有志の学生が日々勉学に励んでいます。

主な活動内容をご紹介します。まず経理研究室に入室後、先輩室員による簿記講義を受講しながら、日商簿記または全経簿記3級以上の合格を目指します。その後、後輩室員への簿記講義を行いながら、日商簿記または全経簿記の2級以上の合格を目指します。また、あびこ祭で行われる研究発表会に向けて資料作成および論文執筆に取り組みます。特に3年次以降では、経理研究室の中心的な役割を担い、後輩室員への指導を行いながら公認会計

士や税理士、日商簿記1級といった、さらに上級の資格試験合格を目標に勉学に励みます。

経理研究室の特徴は次のとおりです。第1に、各種資格試験に挑戦できる環境が整備されています。経理研究室では、先輩室員による講義の受講や学習室の利用、参考書籍の利用など、手厚いサポートが受けられます。第2に、協調性やコミュニケーション力を育むことができます。毎年経理研究室では、懇親会や合宿、研究発表会などを通じて、室員同士の絆を深めることができます。第3に、幅広い人間関係を築くことができます。特に、あびこ祭ではOB・OG総会および懇親会が開催され、社会の第一線で活躍している、経理研究室出身の諸先輩方との交流が行われます。

経理研究室は、本学創立後間もない昭和44年(1969年)に創設され、昨年で45周年を迎えました。これまで経理研究室を巣立った諸先輩方は200名を超えます。公認会計士や税理士、行政書士や企業の経理職など、社会の第一線で活躍されている方々ばかりです。在学生の皆さん、大学生活は今後の人生を大きく左右する大切な時期です。目標に向かって、この伝統ある経理研究室で一緒に頑張ってみませんか?簿記を勉強したい人、自分の未来に挑戦したい人、大学で自分の人生を変えたいと思っている人を、経理研究室は大歓迎します。



経理研究室OB総会にて

昭和49年4月に赴任して以来、41年の永きにわたりお世話になりました。

中央学院大は、土曜休み・プロゼミ(クラス担任)の開講など、いまでは普通のことですが時代の先取りをした大学でありました。当時は、開校9年目で、まだまだ学内の整備が十分でなく、研究室も3人の相部屋で、そこで、先輩の先生から大学の創設期の話などをお聞きました。

当初は、『証券学科』構想もあったそうですが、開学時の社会情勢からこの構想が取りやめになった、という話であり、確かに、母体である中央商業高等学校・中央商科短期大学は当時日本橋(兜町)にあり、いまだに手元にある昭和41年度の学生募集要項や1966年の大学案内を見ると

理事長 大平正芳 理事 瀬川美能留・芝田徹男・福田千里  
顧問 福田赴夫

氏等の名前があり、なるほどとおもいました。

この間、いろいろな経験をさせてもらったこと、懐かしい思い出として大切にさせていただきます。一番に思い起こすことは、まだ

勤続5年目くらいの時に、図書館の建設に携わらせてもらったことであります。外装のため野村証券の本社ビルを見学したりし、当時としては大学のその後の発展の第一歩を踏み出したものと思います。

終わりにりましたが、学生諸君も「今を大切に」生き、大学とともに益々発展することを願っています。

担当科目 数学・情報数学・経営数学・プロゼミ

